

2019年6月12日

2019年3月期 決算説明会における質疑応答の要旨

日時： 2019年6月3日（月）13:00～14:00
場所： 丸の内トラストタワーN館11階
説明者： 代表取締役社長 小川 育三
取締役執行役員 経理企画室長 町田 研一郎

【吸水性樹脂事業（SAP）について】

Q：日本触媒と三洋化成の統合が業界に与える影響と住友精化の対応について教えてください。

A：今回の統合が、国内、中国、アジアの市場、そのうち特に一部の子供向け紙おむつの市場に影響を及ぼすことが予想されるが、詳細は今後の精査が必要である。当社としては、今後需要の伸びが期待される成人用の紙おむつや、付加価値の高い女性用の衛生用品にもターゲットを向けながら引き続き事業の成長を追求していく。

Q：SAPの需給の見通しを教えてください。

A：グローバルでは、中国・アジア・インド、その他東欧などのマーケットでの需要が伸びつつあり、堅調な需要の成長が期待できる。他社の設備増設を勘案すると、供給過多の状況が2020年の後半から2021年ころまでは続くと予測している。

Q：中国における紙おむつの需要の見通しについて教えてください。

A：中国での出生数が減少から増加に転じるかどうかは不透明であるが、中国人口の1～2割を占めていると言われる富裕層の出生数は横ばいまたは減少になると見込まれる。他方、中国内陸部の紙おむつ普及率は、今後の伸びが予想され、中国全体としてみれば今後10年間は紙おむつの普及率の伸びが期待できる。

Q：2019年度の業績見通しは減収減益となっているがその要因について教えてください。

A：中国での高吸水性樹脂（SAP）価格の下落が予想されることから減収減益の見通しとなった。この要因は、グローバルメーカーの中国市場への進出や中国ローカルメーカーの技術力向上による価格競争の激化である。

Q：半年前と比較して中国の事業環境は大きく変化したのか。

A：米中貿易摩擦の影響で中国での紙おむつに対する消費者の指向は大きく変わっている。上海や北京などの富裕層が多い地域では依然として日本製の紙おむつや日本製のSAPを使用したおむつの需要が大きいが、一方、内陸部では低価格帯の紙おむつを志向する動きが出始めている。

Q：吸水性樹脂事業の合理化計画の考え方、内容、効果等について教えてほしい。

A：中国での事業環境の変化や、グローバルメーカーの再編等による競争激化を受け、収益性の抜本的な改善が急務となっていることから、合理化計画を策定した。合理化の柱は、製造プロセスの抜本的な見直しとサプライチェーン全体のコスト改善である。いつ、どの程度、改善効果が出るかは精査中であるが、本格的に現れるのは2020年度以降と予想している。

【化学品事業（リチウム電池用水系バインダー）について】

Q. 中国での製造設備建設審査の長期化が懸念されるとのことであるが、どのようなバックアッププランを持っているのか。

A. サプライチェーンを考慮すると中国での製造が効率的であるが、中国での建設審査が長期化する場合は、国内での製造を検討する。

以上